

内視鏡的大腸ポリープ切除治療の説明書

【ポリープ治療の目的】

長年の研究から、大腸癌のほとんどは大腸ポリープ（腺腫）から発生することが分かってきました。ポリープ（腺腫）が大きくなるにつれて、徐々に良性から悪性に変化して、その一部が癌化していきます。

ポリープが大きくなるにつれて癌化の傾向も強くなっていきますので、ポリープが見つければその対処が必要です。特にポリープの直径が5mm以上の場合は早めの切除が望ましいです。このポリープを、大腸内視鏡用いて切除することで大腸癌を予防・治療していきます。

治療して切除したポリープは、回収した後に詳しく病理の先生に診てもらいます。もし、癌が含まっており、その程度がかなり進んでいる場合は、追加の外科的治療が必要となる場合もあります。

【ポリープ切除治療の方法】

内視鏡で見ながら、ポリープの下の粘膜内に生理食塩水を注入して隆起させます。その後、ポリープをスネアというループ状の針金で締めつけながら、高周波電流を通して焼き切ります。傷ついた粘膜をクリップで縫縮します。

【治療に伴う偶発症について】

内視鏡的切除術によって希に出血や穿孔（腸に穴があくこと）、ショック（血圧低下）などの重篤な偶発症を起こすことがあります。これら偶発症の発生頻度は、大腸内視鏡検査で0.078%、大腸のポリープ切除で0.274%と報告されています。またこれら偶発症は術後2～4日までに起こりますので、退院後も長くて4日程度は旅行、運動、飲酒などを控える必要があります。



はせがわクリニック

内科 + 消化器内科 + 皮膚科